

## ほほえみ 第27号



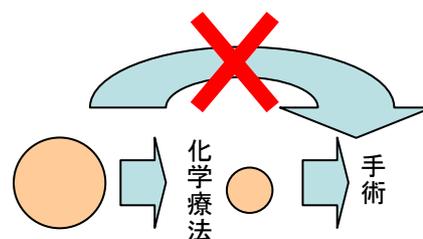
2013年も、はや一ヶ月が経過しました。ほほえみ読者の皆様は、いかがお過ごしでしょうか。我が家では、豆まきは比較的重要な行事で、毎年欠かさず行っていますが、外に撒いた豆は、いつしか鳥などがついばんでいるようで、その辺りも、何となく雪国での季節感を感じさせるものです。節分には元氣よく、鬼を払って、福を招いてください。

### 周術期の化学療法について

手術、放射線、化学療法を癌の三大治療といい、がん治療にはこれらを組み合わせて行うことが少なくありません。特に、手術の前に行う化学療法を術前化学療法、手術の後に行う化学療法を術後補助化学療法と言っています。術前化学療法の意義は、化学療法でがんの病巣を縮小して、切除できる段階に持ち込んだり(ダウン・ステージング)、長期成績を改善する目的です。一方、術後補助化学療法の場合は、手術で治癒切除が行われていることが前提ですが、再発予防のために行われます。

術前化学療法の場合、化学療法を行った効果は病変の縮小で確認できますが、術後補助化学療法の場合には、病変を切除した後なので、効果を判定すべき病変がないまま化学療法を行うこととなります。したがって、術後補助化学療法を行うかどうかは、勘で決める訳ではなくて、事前に臨床試験で再発抑制効果(再発率が何パーセント下がったか)を、チェックして、決められた投与法に則って行います。通常、再発率はステージによって異なり、同じがんであっても、術後補助化学療法を行う場合と行わない場合が出てきます。つまり、胃癌でステージIの場合、元々再発率が低いので、術後補助化学療法を行っても、再発を抑制するより化学療法の副作用の方が前面に出ますが、ステージがII, IIIとなると、再発率が相対的に上がってくるので、たとえ副作用が若干出ても、再発抑制効果を狙った方がメリットがあることとなります。

実際に、術後補助化学療法を行ってメリットがある方に関してですが、個々の方に関しては、補助化学療法の効果があるかどうかは判定はできません。下の図に示しましたが、術後補助化学療法なしに較べて術後補助化学療法ありの方が、無再発の割合が高くなっていますが、術後補助化学療法なしでも無再発の方、術後補助化学療法ありでも残念ながら再発される方は、術後補助化学療法によって運命は変わらないので、←→に該当する方がメリットを得た(再発するところを無再発となった)のです。

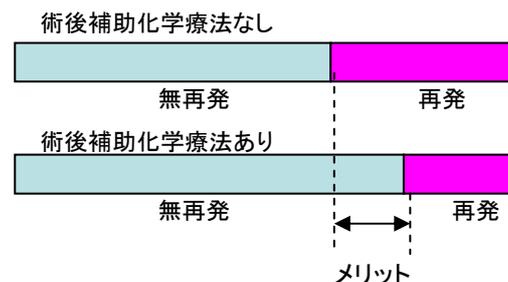


[術前化学療法]

そうすると、メリットを受けるかどうかはわからなくて、全員がメリットがある訳でもないということなので、極端に重い副作用を来すような化学療法は、術後補助化学療法には不向きです。

1月24日から26日の、米国癌学会の消化器癌シンポジウムで、本邦の膵癌術後の補助化学療法で、ゲムシタビン療法よりティーエスワン療法の成績が上回る結果が報告されましたが、おそらく今後は、膵癌の術後補助化学療法が今までと変わっていく可能性が高いものと考えられます。

ティーエスワンは日本で開発されたので、人種によっては副作用が強いなどの問題があることが指摘されていますが、日本発の有望なデータであり、今後の動向に注目しています。



[術後補助化学療法]

## 新渡戸稲造記念 メディカル・カフェ

2011年の12月から、新渡戸稲造記念 メディカル・カフェを一ヶ月に一回開催して参りましたが、昨年12月、今年の一ヶ月と、読売新聞社の取材をお受けしました。全国にメディカル・カフェは十数か所あり、今後も増えていくものと思います。メディカル・カフェが世の中に広まっていけばという思いから、取材をお引き受けしております。参加された方のなかでも、取材を受けていただいたり、この活動に共感していただける方からスタッフとして参加して下さる方も、徐々にできております。

7月6日には東京にて、第2回がん哲学外来市民学会大会が開催されます。また、がん哲学外来市民学会では、がん哲学外来やメディカル・カフェにお手伝いいただく方の、研修の場として、一年に一回、コーディネーター養成講座を開催しています。今年は10月4、5日に、長野県・佐久市で開催される予定です。

地道な活動になりますが、今後とも宜しくお願い申し上げます。



2012年12月23日 読売新聞岩手版

## 音楽について

個人的には、音楽を聞くより読書の方が合っていて、読書の話題が多かったのですが、今月は音楽に関する話題です。音楽は弾くのが好きな人と、聞くのが好きな人に分かれると思います。どちらかという、興味があれば弾くほうかもしれませんね。

一時期、ジャズを良く聴いていましたが、特にサックスが好きで、その中でもベン・ウェブスターがお気に入りでした。初期の三大テナー奏者は、コールマン・ホーキンス、ベン・ウェブスター、レスター・ヤングですが、サックスは、音色で聞く楽器でもあるので、バラードの時のサブトーンの素晴らしさなど、ベン・ウェブスターの右に出るものはいないと思われます。当初は豪快なテナーだったのですが、デューク・エリントン楽団に入って、アルト・サックスのジョニー・ホッジスの影響を受けて、彼特有のリリカルなスタイルが出来たと言われてます。

スイング、バップ、クール、モダン、フリーというようにジャズは変遷するのですが、スイングはほのぼのしていて、余裕があって良いものです。

今や、CDすら買わない時代らしいですね。ジャズはジャケットが気に入って買うというのもあって、嗜好に多様性があつたほうが自由で良いと思うのですが、昨今、音楽に触れるようになるか否かも、メディアに依存するところが大きすぎるような気がします。



## MEMO

### 2月のがん化学療法科の予定

2月8日 柴田教授外来  
2月11日 建国記念日  
2月22日 柴田教授外来

今月は、インフルエンザ対策のため、新渡戸稲造記念メディカル・カフェはお休みとなります。



今年の恵方は南南東です。

